

2023年3月期 連結決算の概要と 中長期の取り組み

2023年5月18日

株式会社今仙電機製作所

東証プライム・名証プレミア 証券コード：7266

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

V. 株式市場への対応

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

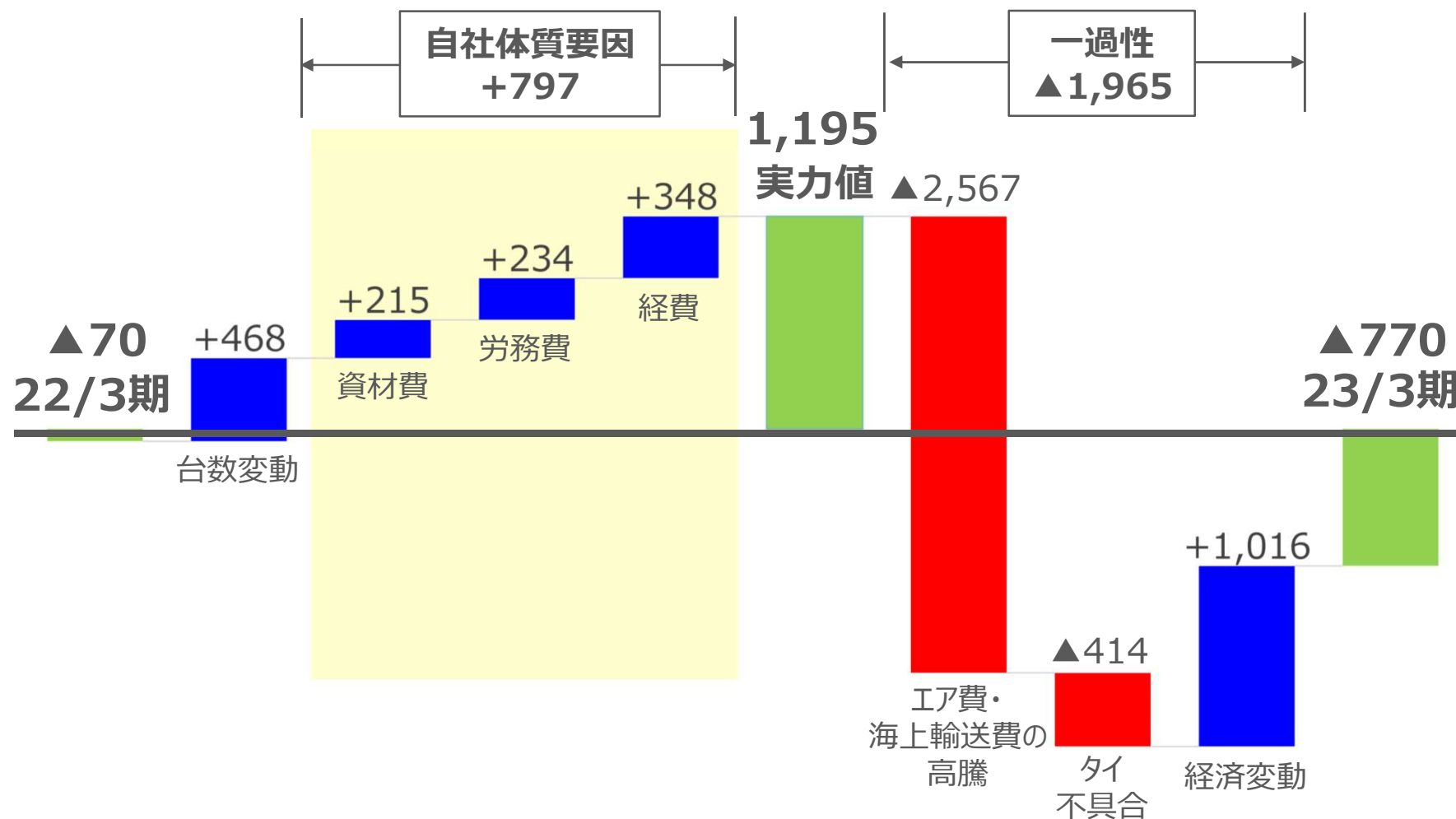
V. 株式市場への対応

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

単位：百万円	22/3期	23/3期	増減額	増減率
売上高	85,155	99,730	+14,575	+17.1%
営業利益	▲70	▲770	▲700	—
経常利益	616	28	▲588	▲95.4%
当期純利益	▲1,210	▲2,053	▲843	—

為替		22/3期	23/3期
	USD	109.90円	131.62円
	CNY	17.04円	19.50円
	THB	3.44円	3.75円



生産増加に加え経費改善に努めたものの、上期に発生した北米向けエア輸送費
およびタイ不具合対応費などの一過性のコストにより営業損失となった

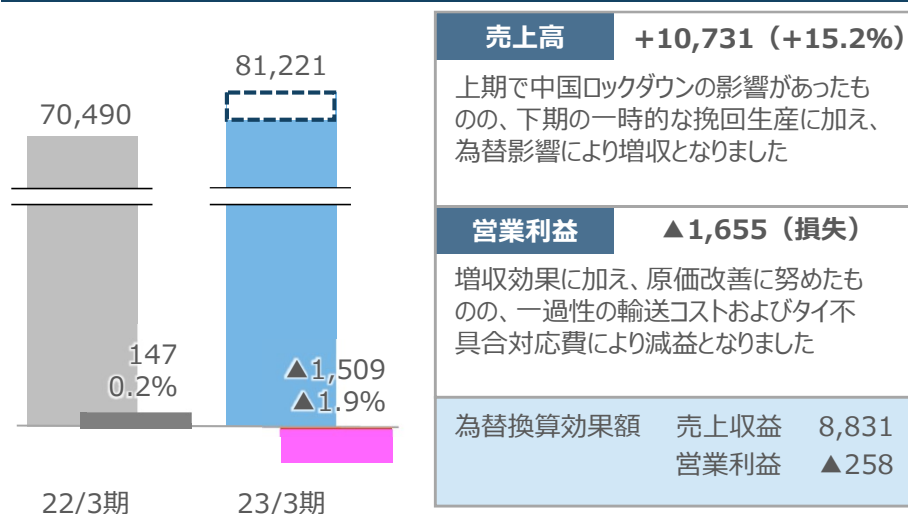
2023年3月期 事業セグメント別実績



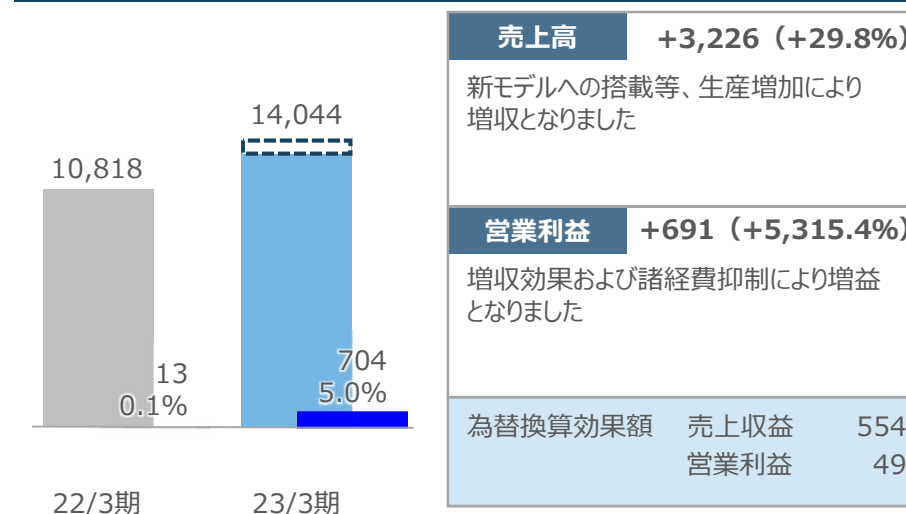
Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

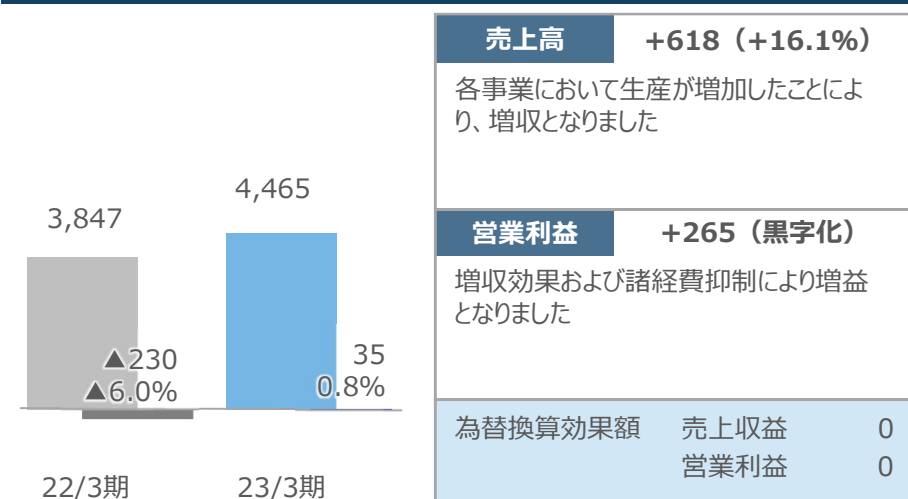
シート・電装事業



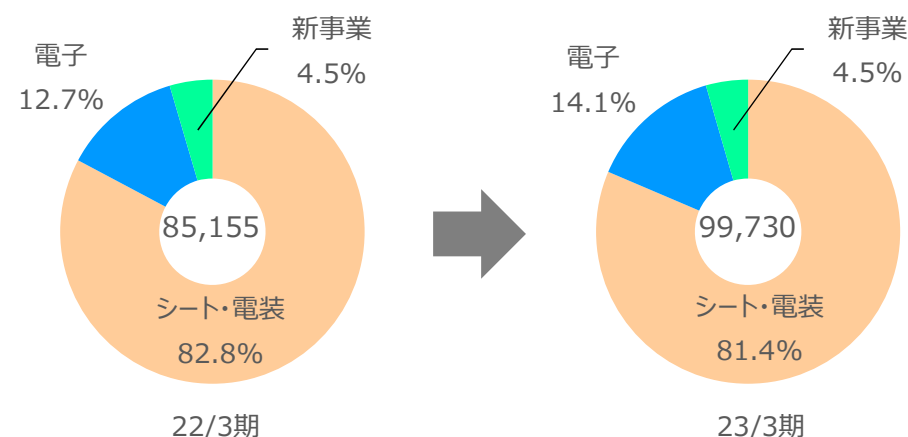
電子事業



新事業



事業別 売上高構成



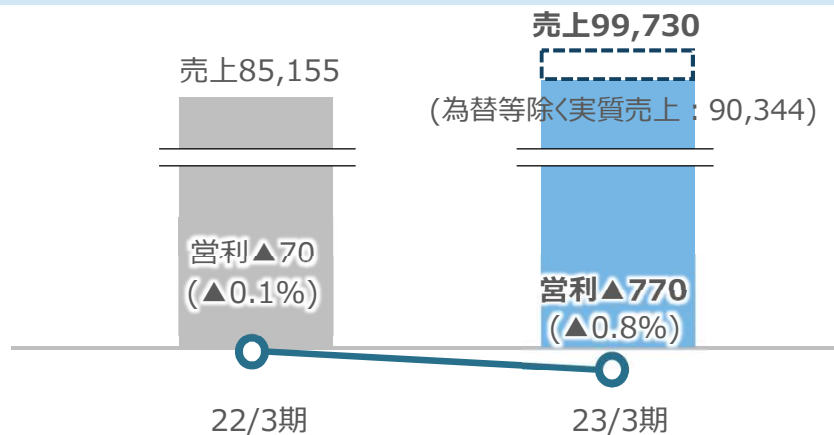
※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

2023年3月期 地域セグメント別実績

(単位：百万円)

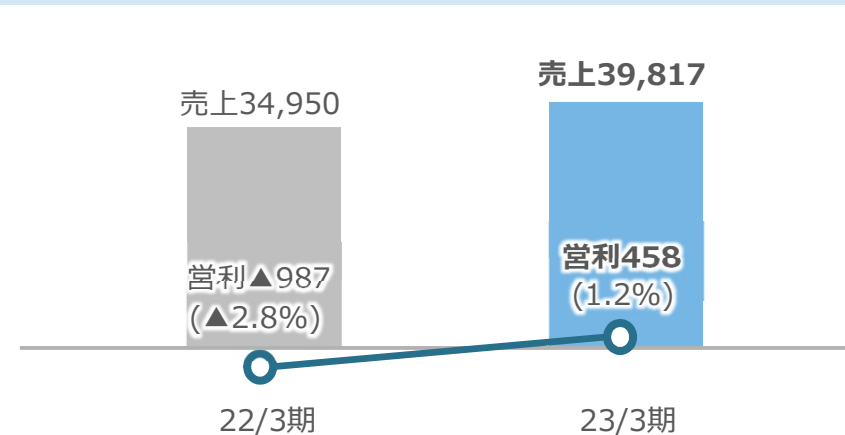
連結（消去後）

増収および体質改善も、輸送コスト増加により減益



日本

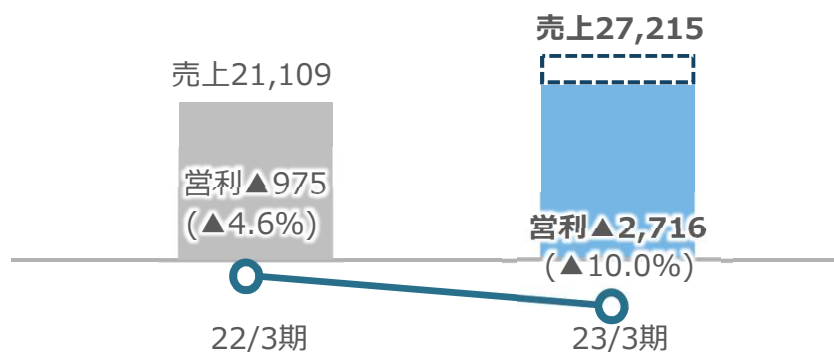
増収および体質改善により黒字化



北米

増収も、輸送コスト増加により営業損失拡大

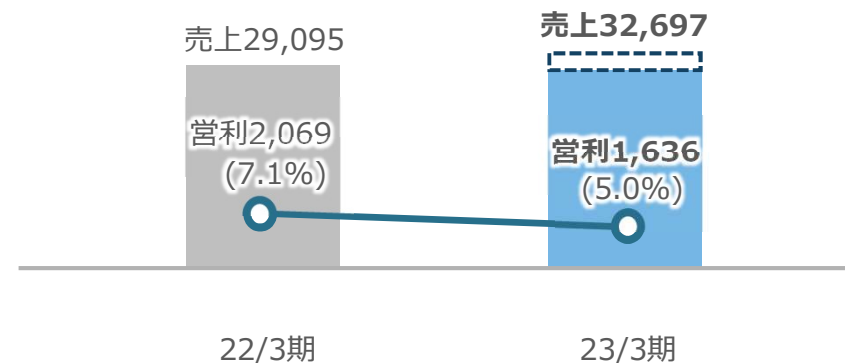
(為替等除く実質売上：22,344)



アジア

為替による増収も、タイ不具合への対応費により減益

(為替等除く実質売上：28,183)



(単位：百万円)

設備投資

	22/3期	23/3期	増減額
国内	1,706	1,170	▲ 536
北米	1,204	330	▲ 874
アジア	1,037	936	▲ 101
合計	3,947	2,436	▲ 1,511

<当期の主な投資内容>

- ・国内
主に電子事業において機器・ソフトウェアの導入
- ・北米/アジア
新製品立ち上がりと生産自動化への対応

減価償却費

	22/3期	23/3期	増減額
国内	1,902	1,320	▲ 582
北米	869	447	▲ 422
アジア	1,100	1,182	82
合計	3,871	2,949	▲ 922

- ・国内
前期において減損処理を行った影響により減少
- ・北米
メキシコ拠点のシート生産終了に伴う資産売却により減少

■ 損益分岐点の良化

工場再編



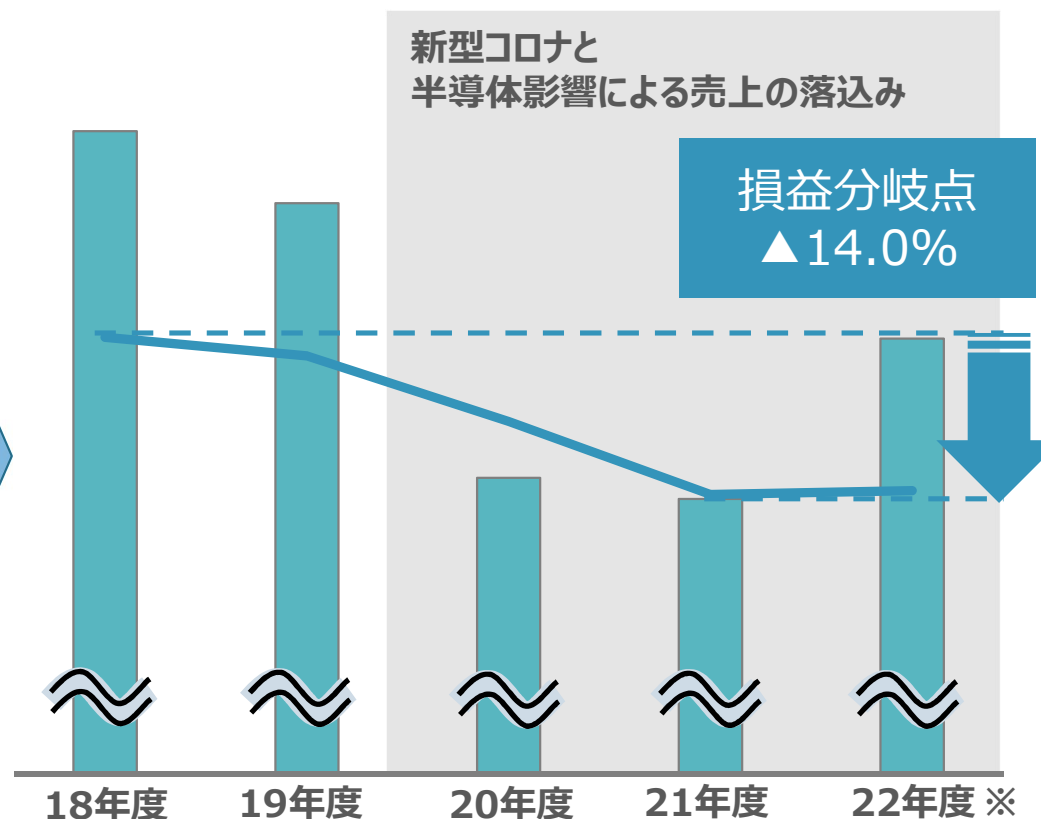
中部地区における生産工場の再編完了
この取組みにより工場間・工程間の
物流コストの削減、管理費削減を実現

自動化ラインの導入



日本や北米地区など労務比率が高い
地区を中心に自動化ラインを導入することで
生産効率改善を実施

■ 売上 ■ 損益分岐点



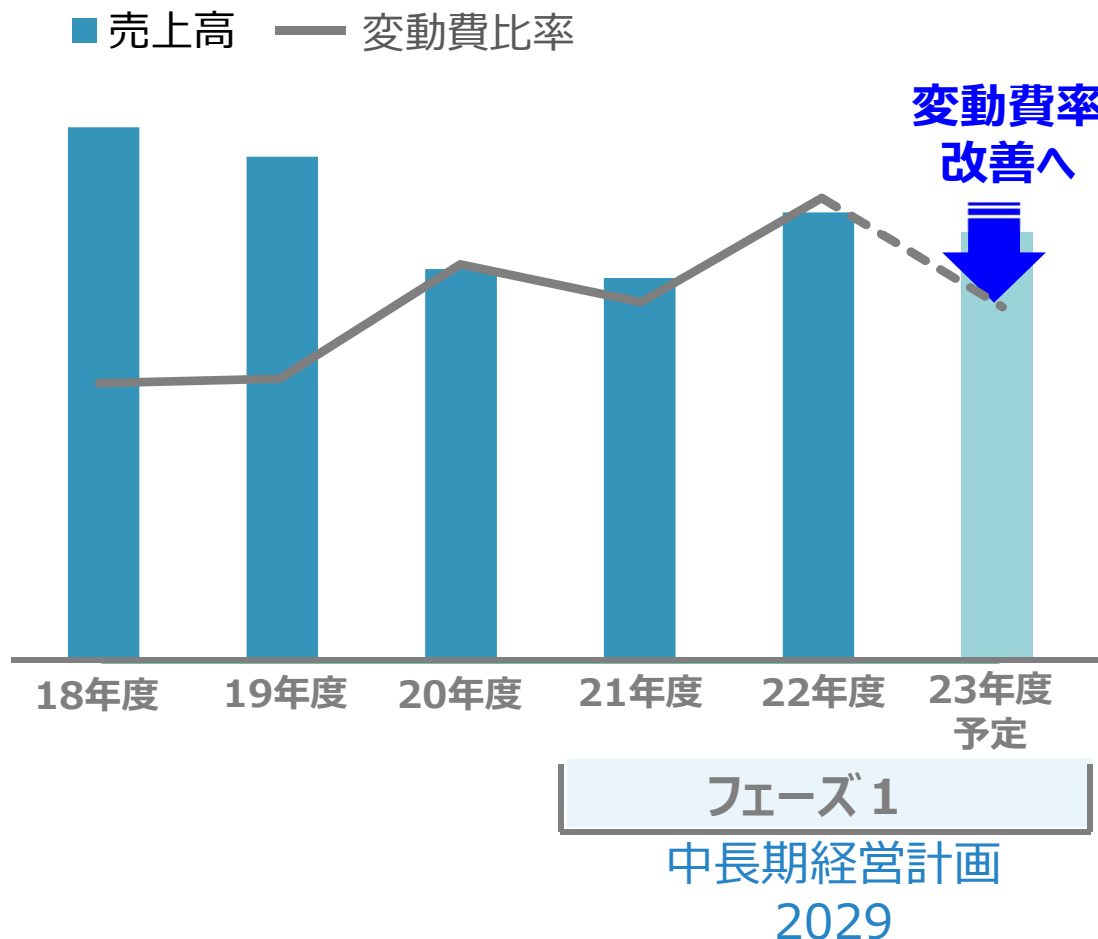
フェーズ1

中長期経営計画
2029

※2022年に発生した一過性影響は損益分岐点計算に含んでおりません

これまでの固定費削減や生産効率改善の取組みにより損益分岐点が良化

■ 22年度の課題と今後の対応



<資材費>

- 一過性のエア費用および海上運賃の高騰
 - 物流混乱の解消によりエア費用は一掃
 - 海上運賃もコロナ前水準近くまで値下がり傾向
- テイエス・テック株式会社との協業活動での物流改善

■ 材料費の値上がり

- VA/VEの推進
- 売価の適正化、客先回収を推進

<製造労務費>

- 賃金上昇
 - 引き続き自動化ラインなどによる生産効率改善
- 人員配置の最適化

輸送費、材料費および賃金の上昇により悪化した変動比率は一過性費用の解消、販売価格の適正化、各種改善により良化の見込み

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

V. 株式市場への対応

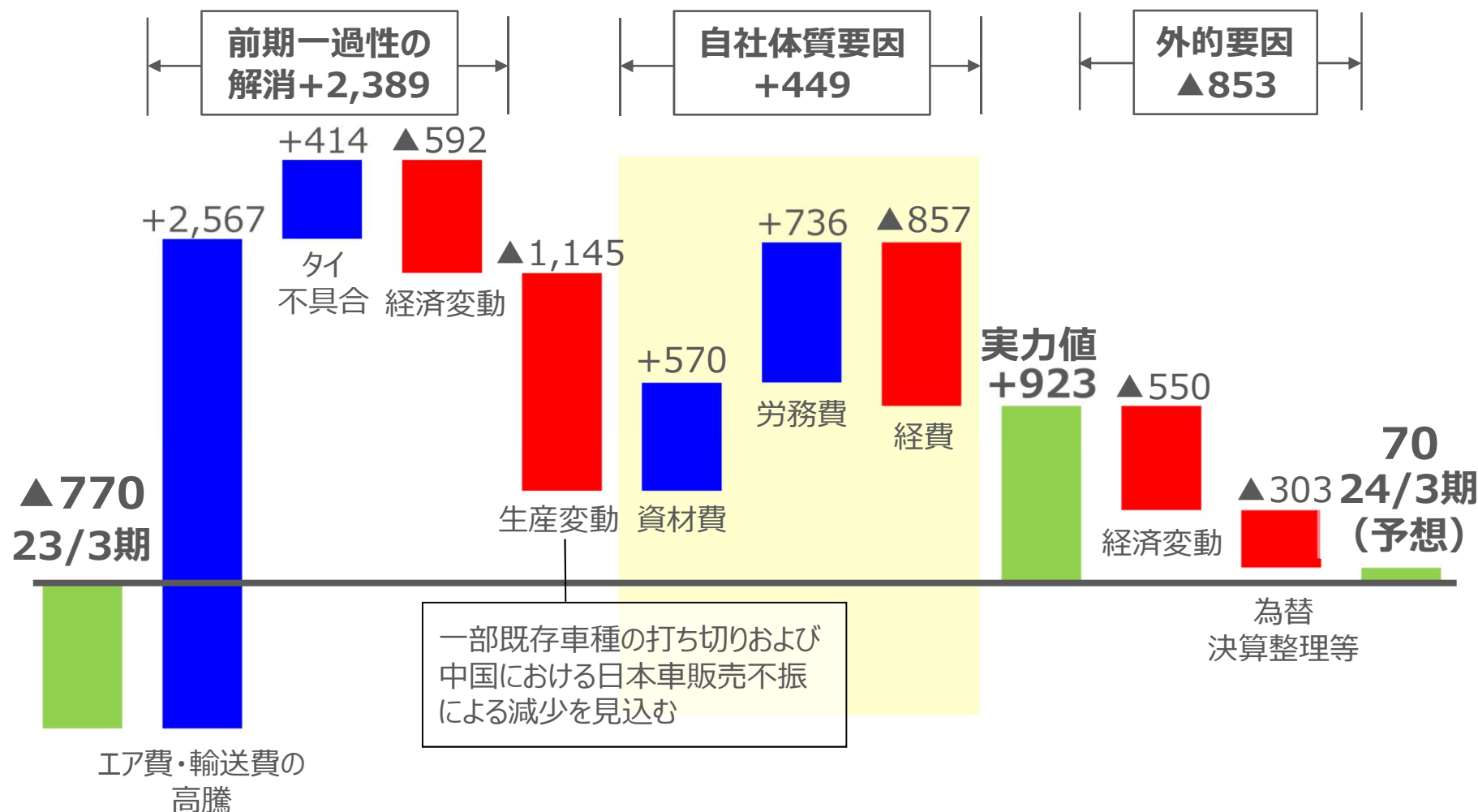
取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

単位：百万円	23/3期	24/3期 (予想)	増減額	増減率
売上高	99,730	95,400	▲4,330	▲4.3%
営業利益	▲770	70	840	—
経常利益	28	50	22	+77.8%
当期純利益	▲2,053	▲1,970	83	—

※日本、中国における希望退職による特別損失計上 約1,400百万円を見込む

為替	23/3期		24/3期(予想)	
	USD	131.62円	▶	130.00円
	CNY	19.50円		19.00円
	THB	3.75円		3.80円



前期に発生したエア費・タイ不具合費用等の一過性コスト解消により良化する一方
減収影響および物価上昇などの外的要因は下振れ要因となる

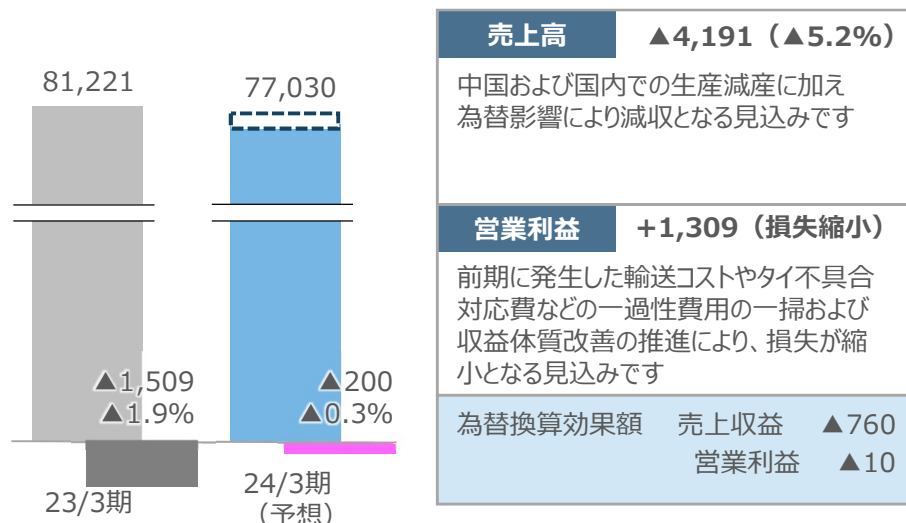
2024年3月期 事業セグメント別予想



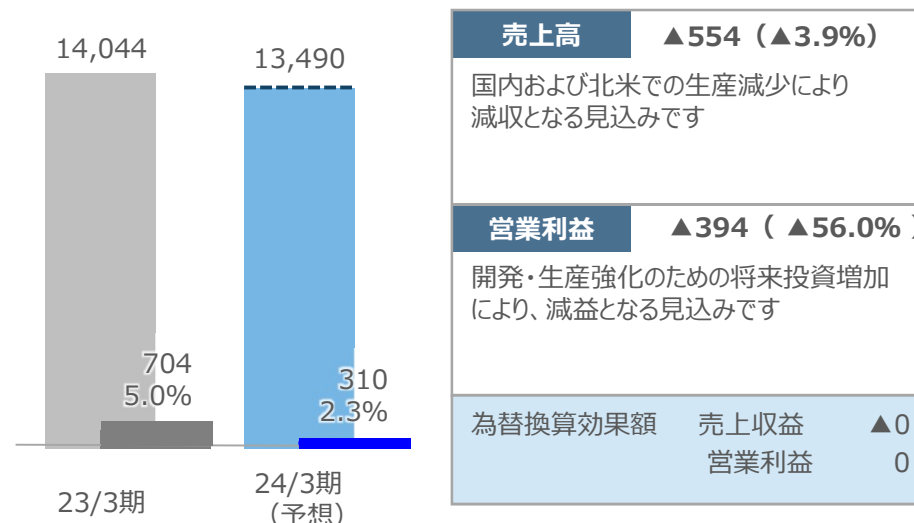
Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

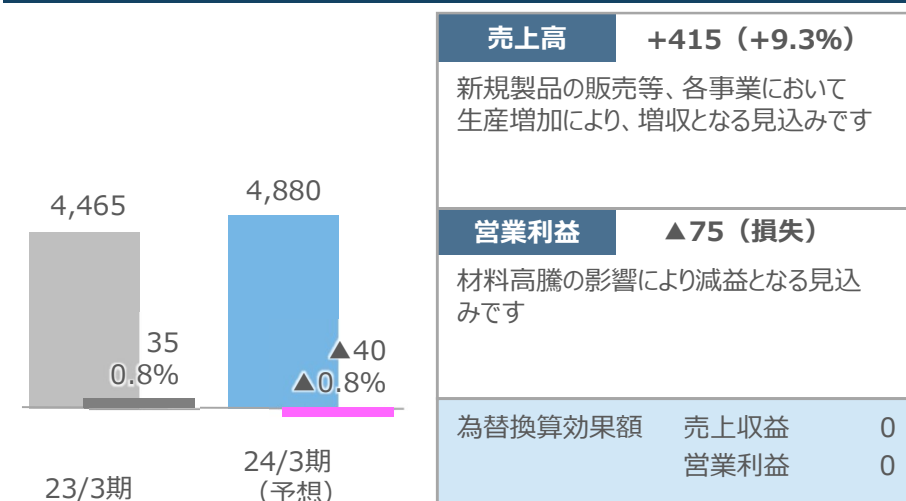
シート・電装事業



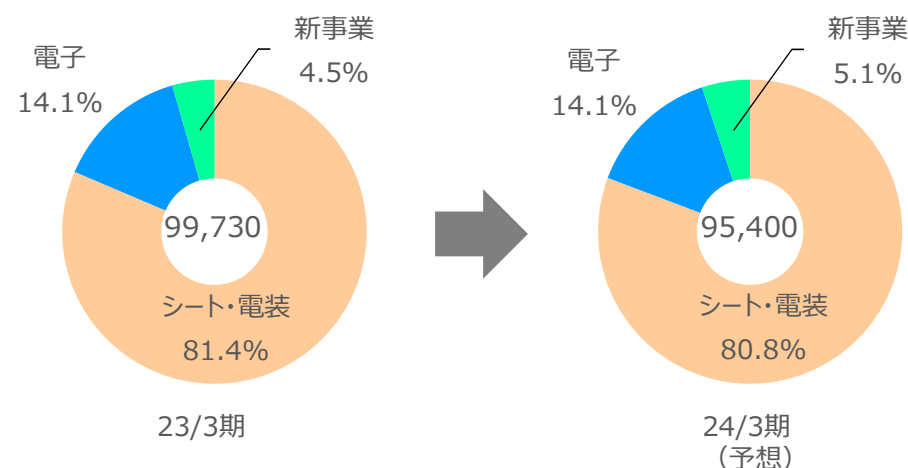
電子事業



新事業



事業別 売上高構成



※新事業には、既存事業である非自動車関連事業を含みます。

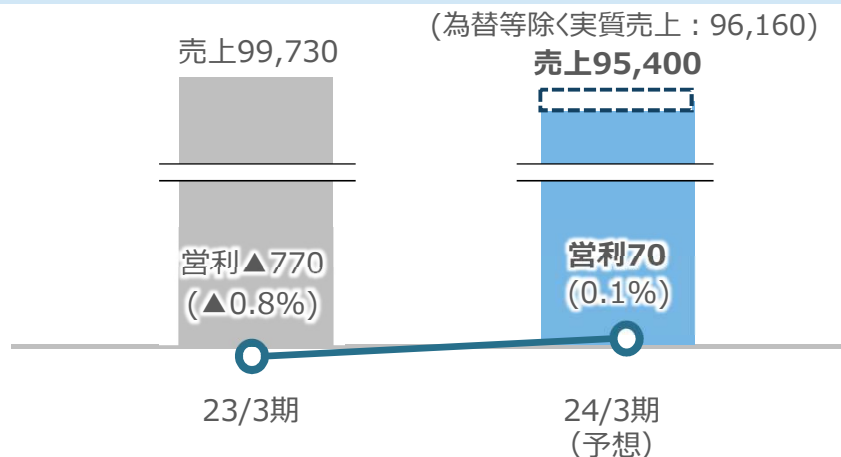
2024年3月期 地域セグメント別予想

Challenge to New Imasen

(単位：百万円)

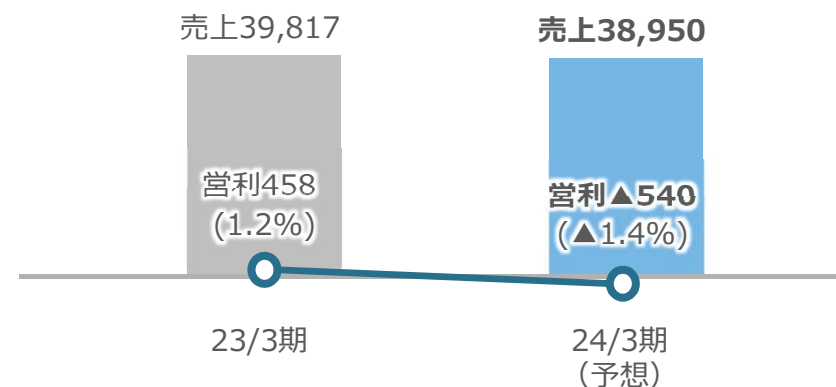
連結（消去後）

減収も、前期一過性コスト一掃により黒字化



日本

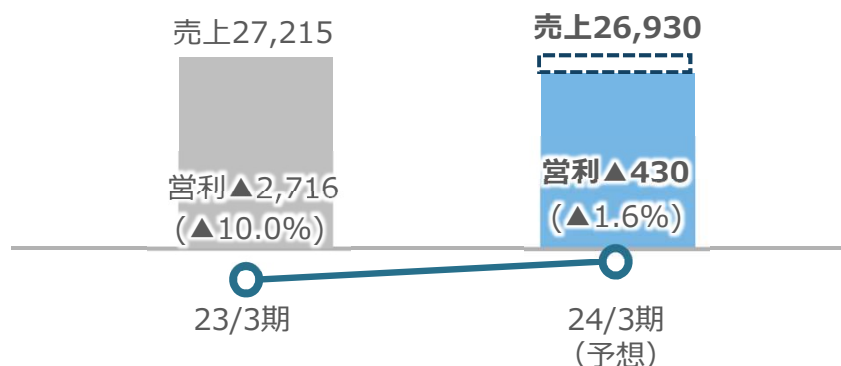
売上減少の影響および将来投資負担により減益



北米

一過性の解消（輸送コスト）により営業損失縮小

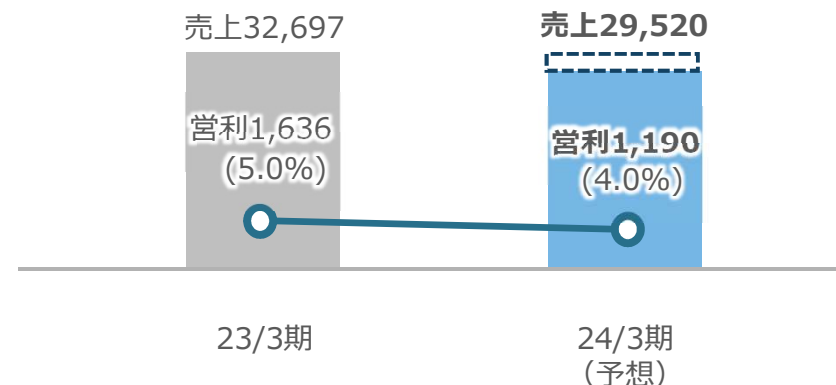
(為替等除く実質売上：27,260)



アジア

中国での減収影響により減益

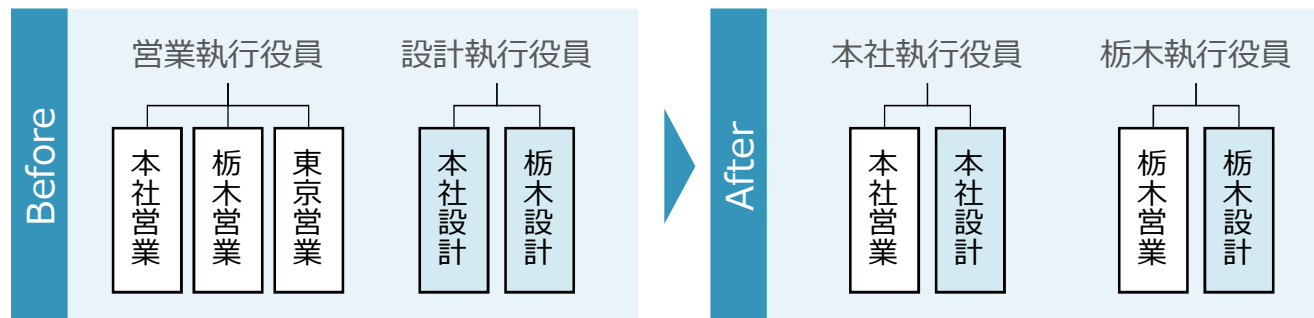
(為替等除く実質売上：29,950)



■ 筋肉質な体制の構築

▶ シート事業における組織と人員構成の最適化

- ・担当執行役員の営業、設計包括管理による一体感とシナジー創出



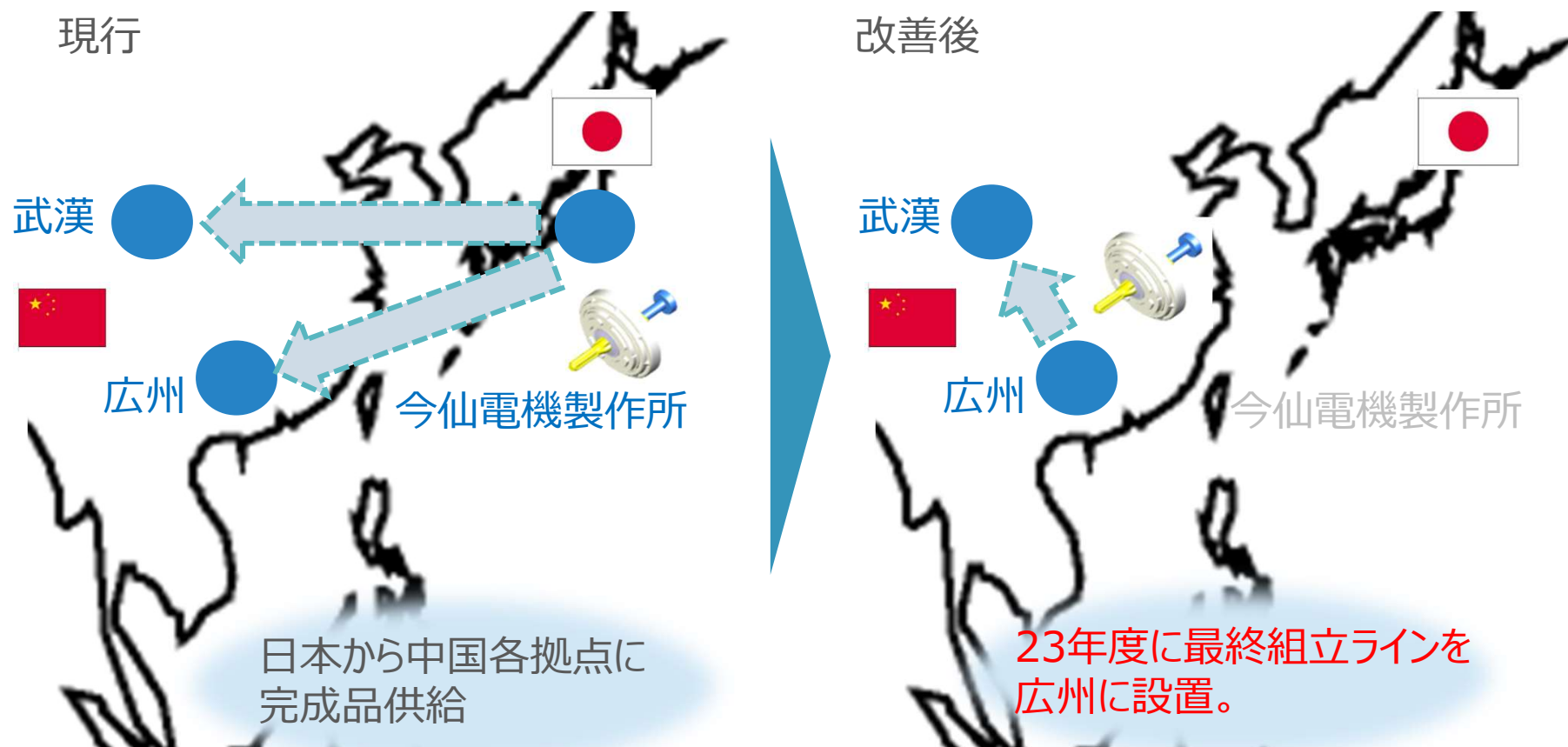
- ・新規顧客獲得に向けた専門部門を新設
- ・営業人員強化…他部門よりコンバートし限られたリソースで強化を図る
- ・売上予想や生産性・業務効率化に適した人員構成を目指し希望退職者を募る

▶ 中国拠点における人員の適正化

23年度に予想される中国の大幅な売上減少に合わせ人員の適正化を実施する

■ 中国拠点 リクラーコア部品現調化

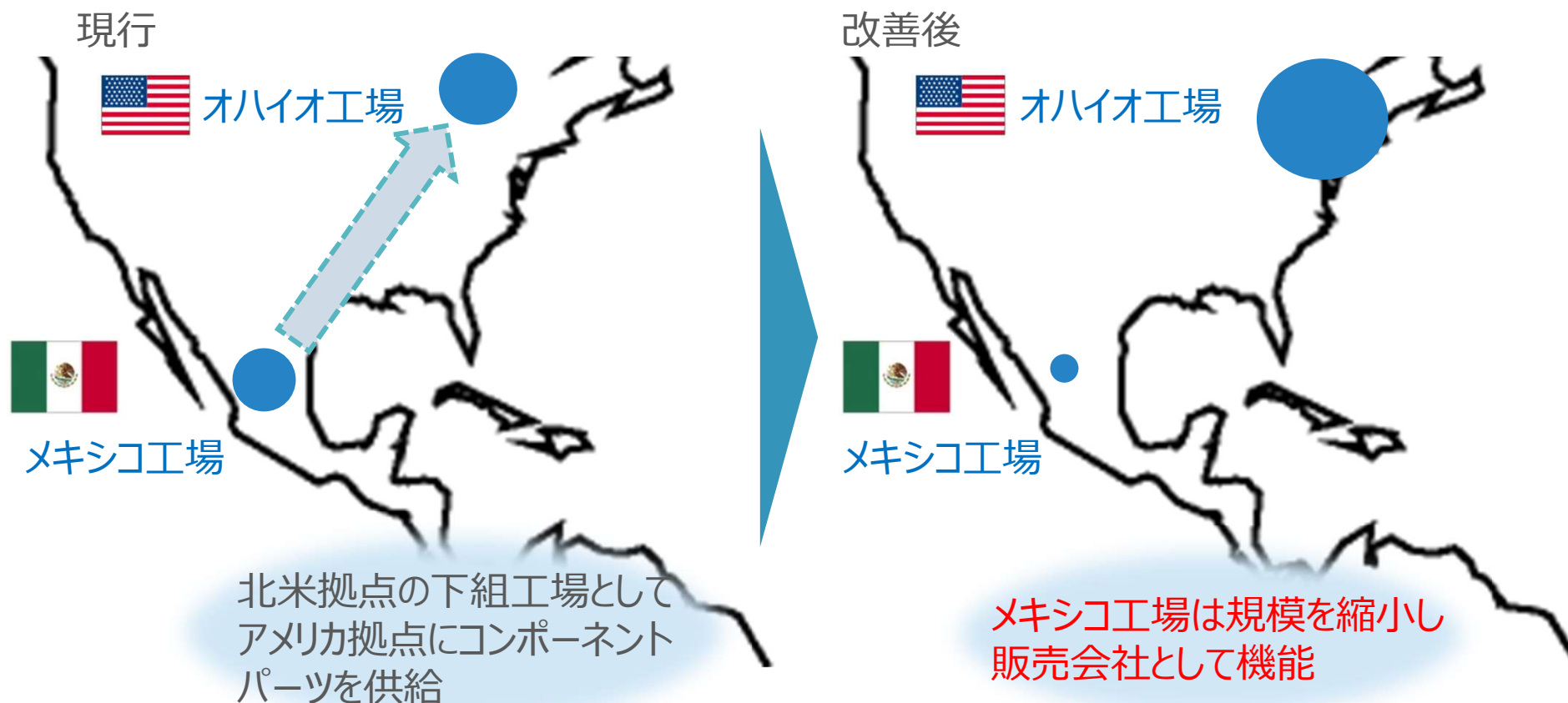
中国拠点において、これまで日本から輸入していたリクライニングのコア部品現調化を推進中
この取組みにより輸送コスト、資材費低減を実現



中国拠点でコア部品の現調化を推進中

■ 北米シート事業集約

北米地域においてメキシコ工場のシート生産業務を米国オハイオ工場に集約した
この取組みにより北米地区生産体制のスリム化を図るとともに輸送費低減を実現



北米地区の生産拠点をスリム化し輸送費低減や販管費の低減を実施

2024年3月期 設備投資・減価償却費予想

(単位：百万円)

設備投資

	23/3期	24/3期 (予想)	増減額
国内	1,170	1,902	732
北米	330	304	▲ 26
アジア	936	2,144	1,208
合計	2,436	4,350	1,914

<当期の主な投資内容>

- ・国内
新製品立ち上がりへの投資と太陽光発電導入費用
- ・アジア
新製品立ち上がりと生産自動化、および内製化への投資

減価償却費

	23/3期	24/3期 (予想)	増減額
国内	1,320	1,221	▲ 99
北米	447	409	▲ 38
アジア	1,182	1,192	10
合計	2,949	2,822	▲ 127

- ・国内、北米
前期での投資抑制により減少
- ・アジア
前期において新規車種立ち上がりと内製化への投資により増加

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

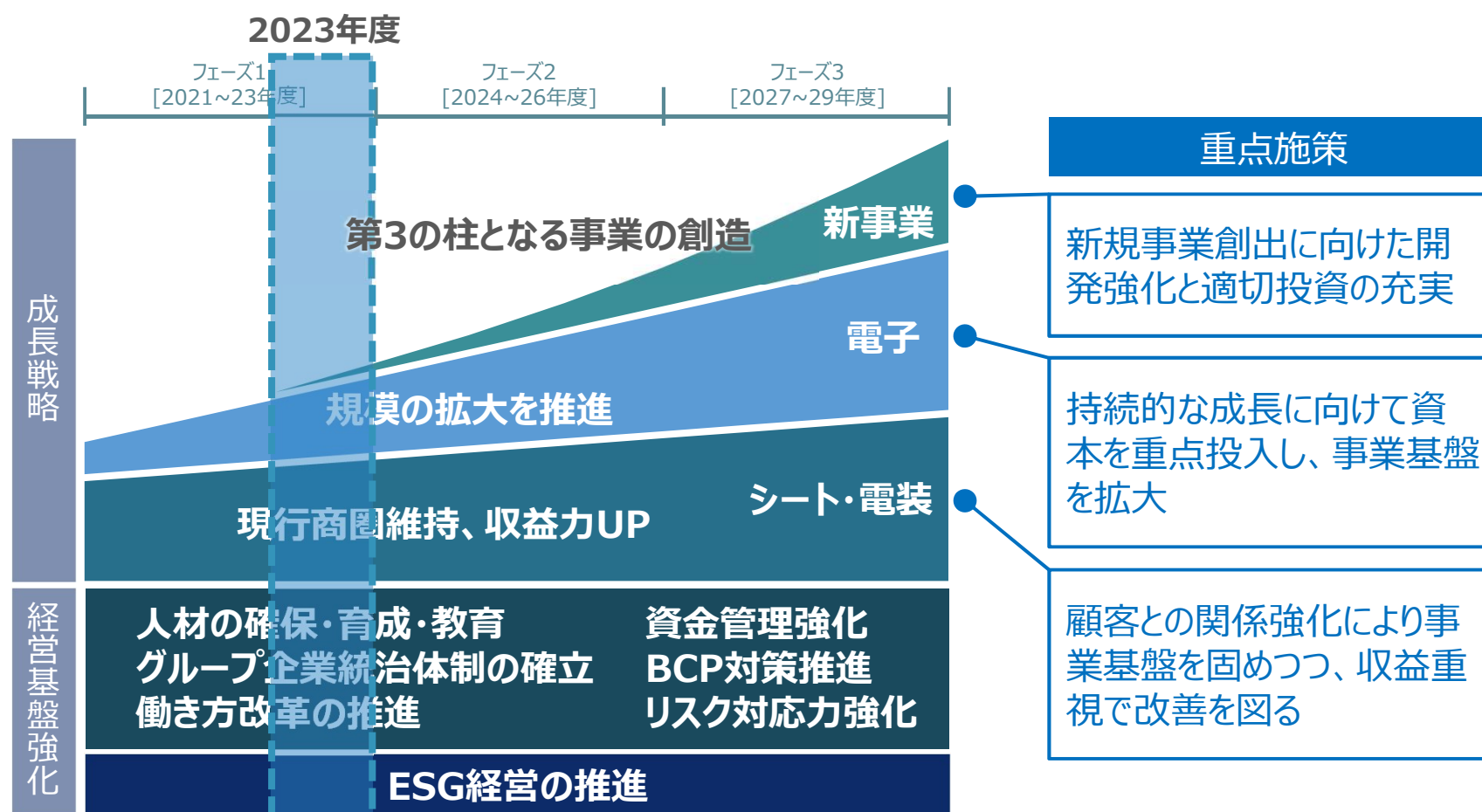
V. 株式市場への対応

取締役 社長執行役員

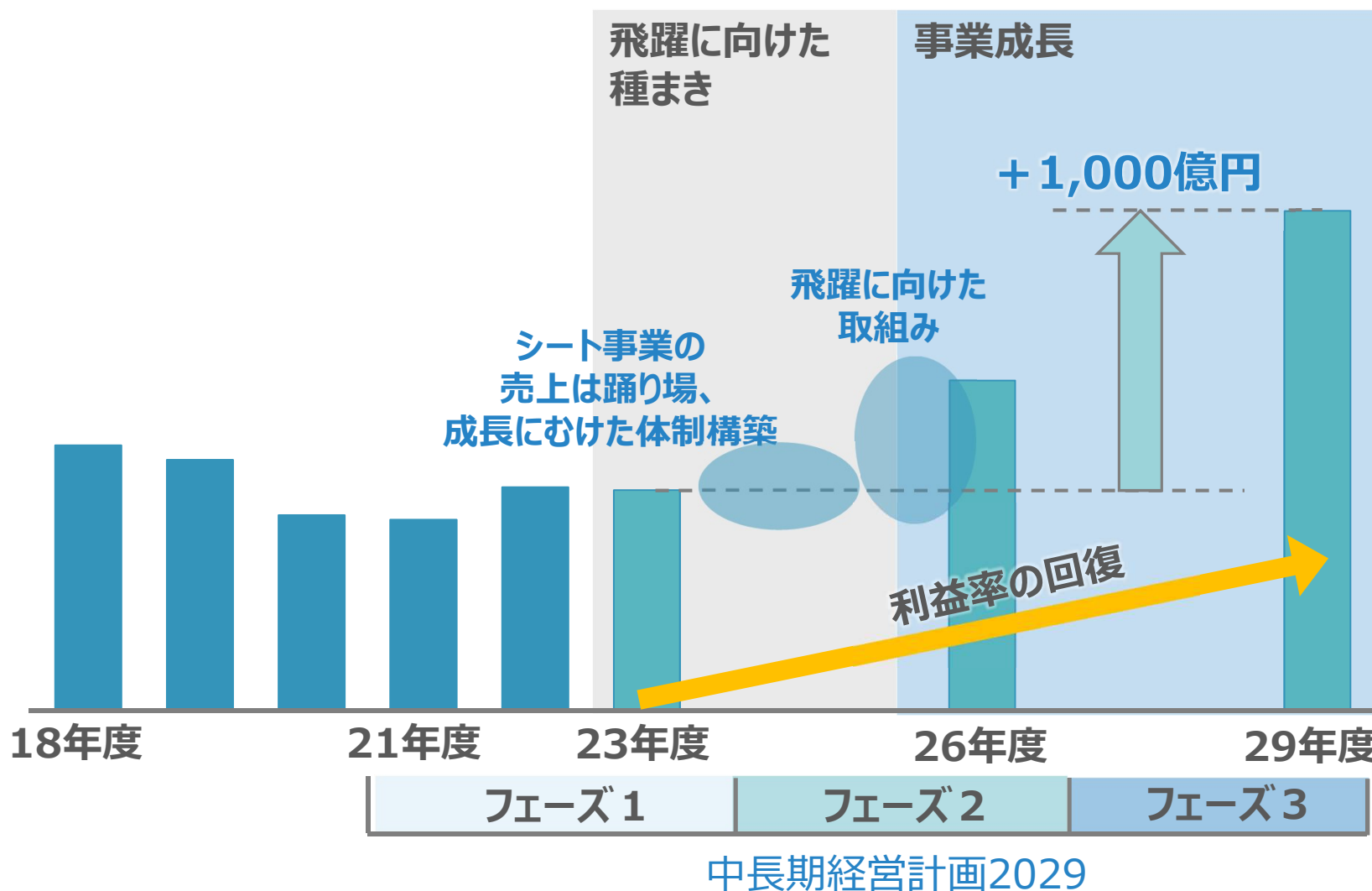
櫻井 孝充

中長期経営計画2029

「中長期経営計画2029」で掲げる「持続的成長に向けた事業の変革」に向けて
ESG経営推進による経営基盤強化の下、バランスのとれた3本足の事業へ取り組んでいます



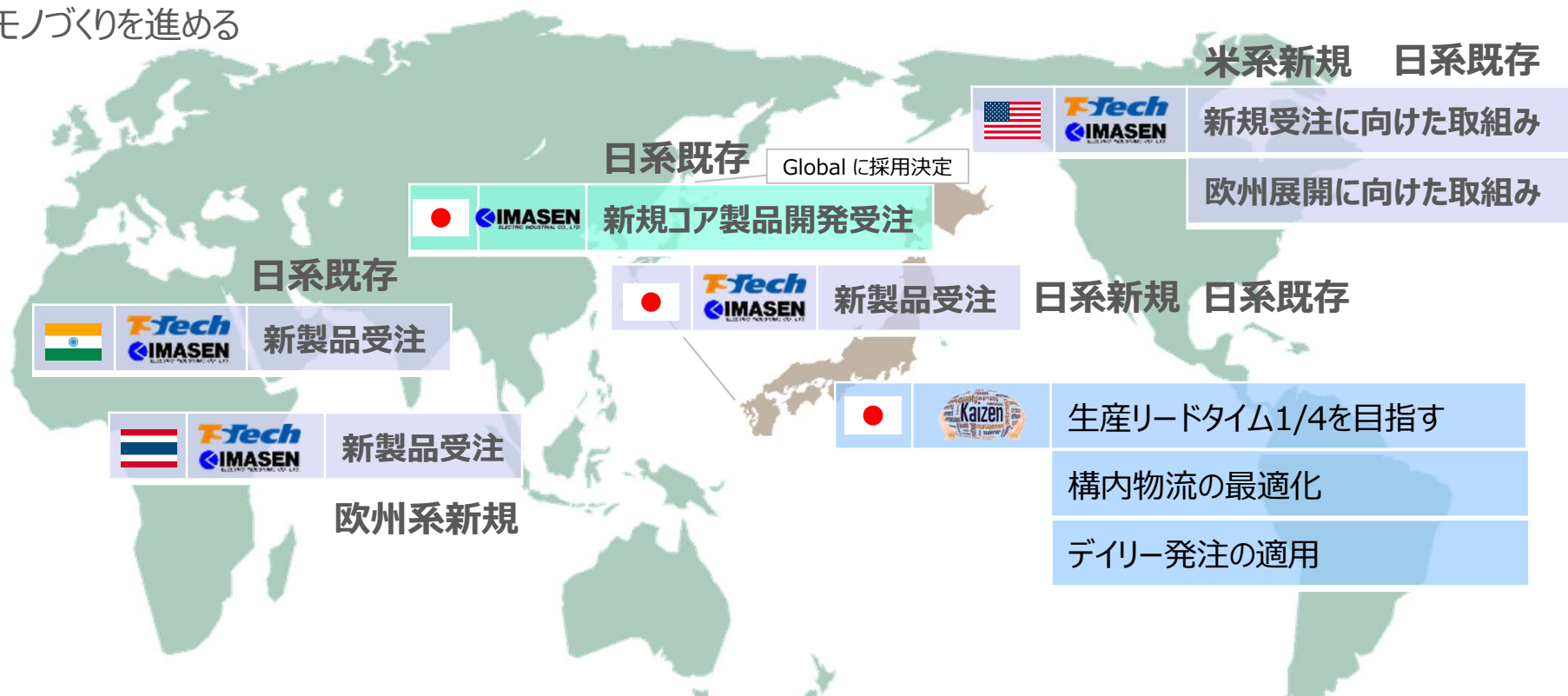
■シート+電子事業の売上推移イメージ



26年からの大幅な売上増加に向けて、23年は筋肉質な体制構築に取り組む

【シート事業の基盤の強化】

- ・ティ・エス テック株式会社との資本業務提携による共創活動を推進
- ・競争力のある新製品の市場投入による 新規お取引先の獲得 新規受注の拡大を推進
- ・生産方式を大きく見直すことにより、高い品質を確保しつつも、加工費を抑制し、収益力のあるモノづくりを進める

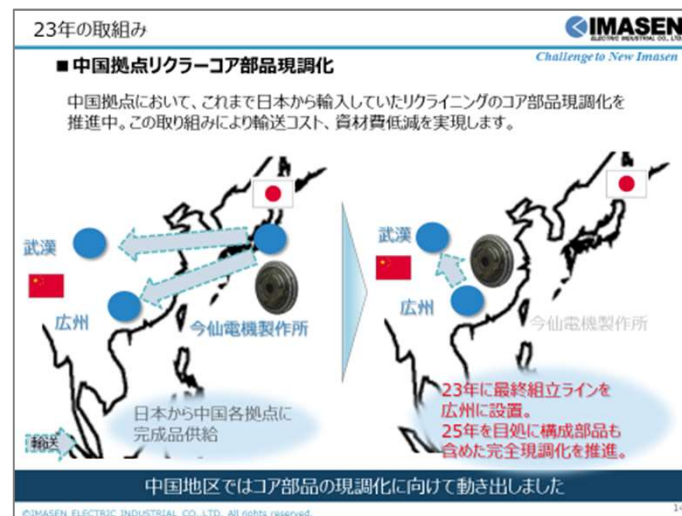


『TS共創活動』『競争力のある製品』 グローバルで受注拡大

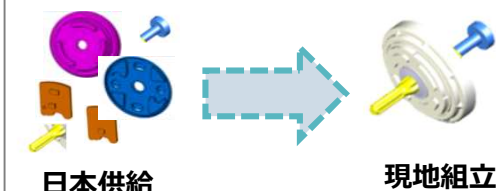
■ 広州工場リクラーコア部品の更なる現調化



広州今仙電機有限公司



23年度：組立工程の現調化



【熱処理技術の現地確立】
【高精度プレス技術の現地確立】

25年度：構成部品含む完全現調化



25年を目処に更なる現調化を推進しコスト削減を目指す

積極的な内製化を行い将来に向けコスト競争力の向上を図る

■ 武漢工場 プレス部品・塗装部品の内製化



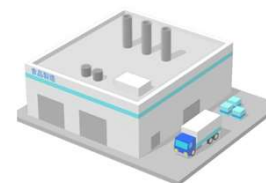
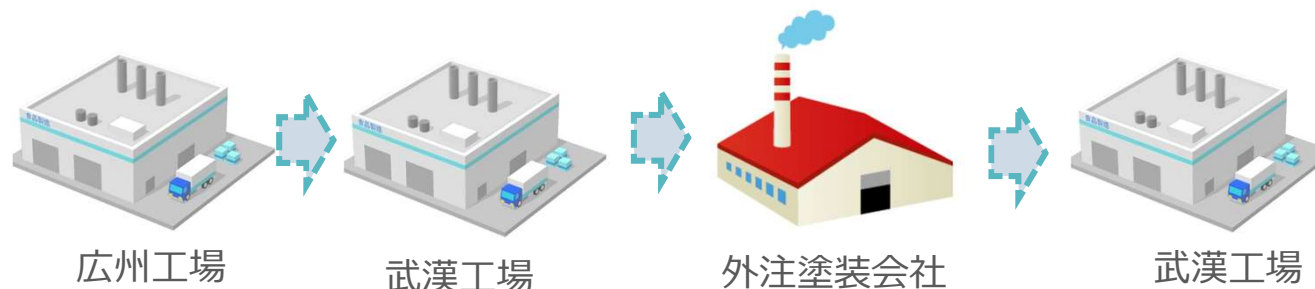
中国拠点のさらなるコスト競争力強化のため、塗装設備の新規導入、武漢工場にプレスラインの増設を進め一貫生産体制を構築します

【設備の新規導入】 ～24年度1月導入完了



武漢今仙電機有限公司

工場間輸送を多くロスが多い



武漢工場

一貫生産体制を構築

一貫生産体制の構築を図りローカルサプライヤーに勝る競争力向上を図る

■インド拠点 新規受注に向けた生産能力強化

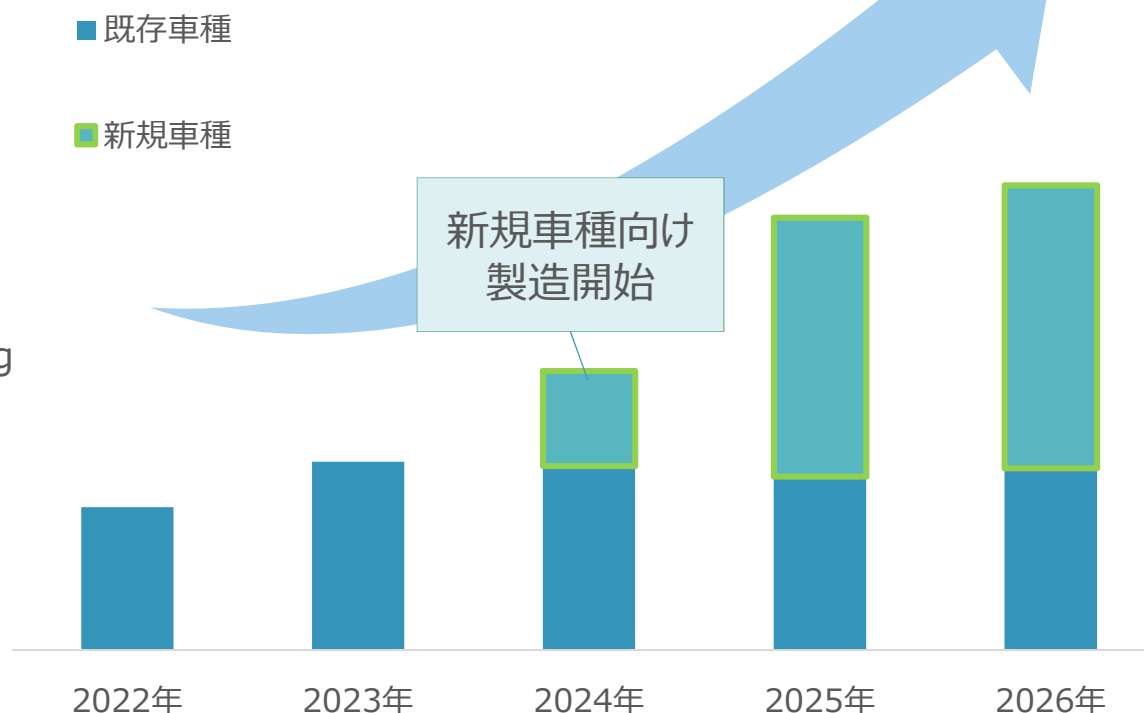


インド拠点では、24年度の新規車種受注により中期的に売上増加の見込み
増産に向けて建屋増築ならびにプレス設備を導入し生産能力の強化を行う



Imasen Manufacturing
India Private Limited

インド中期売上高見通し



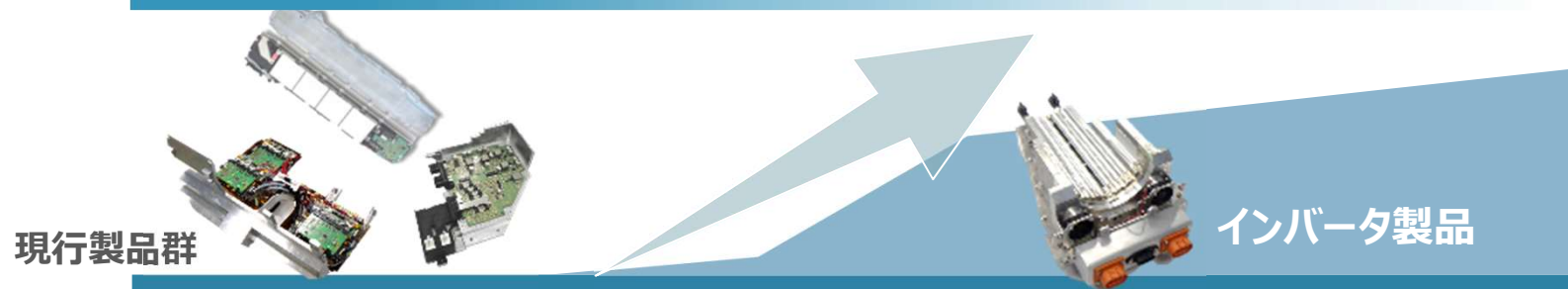
現在見込まれている新製品の立上げにむけ生産能力の強化を図る

■ 電子事業：電気駆動システム開発



2022年8月にマツダ株式会社様と合併で設立した、
Mazda Imasen Electric Drive株式会社（略称：MIED）ではEV車の要となる動力ユニット「e-Axle」の基幹部品であるインバータの開発、および基板の実装含む生産技術の開発を担い、小型・高性能・高効率の電気駆動システムの創出を目指します。

中長期売上イメージ




IMASEN
ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.
広島に生産技術部を新設



MIED
生産技術開発部

製品開発と共に、将来の生産体制構築のため
23年度インバータ製造ラインを協同企画

人的資本を投入し開発能力の向上を図る

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

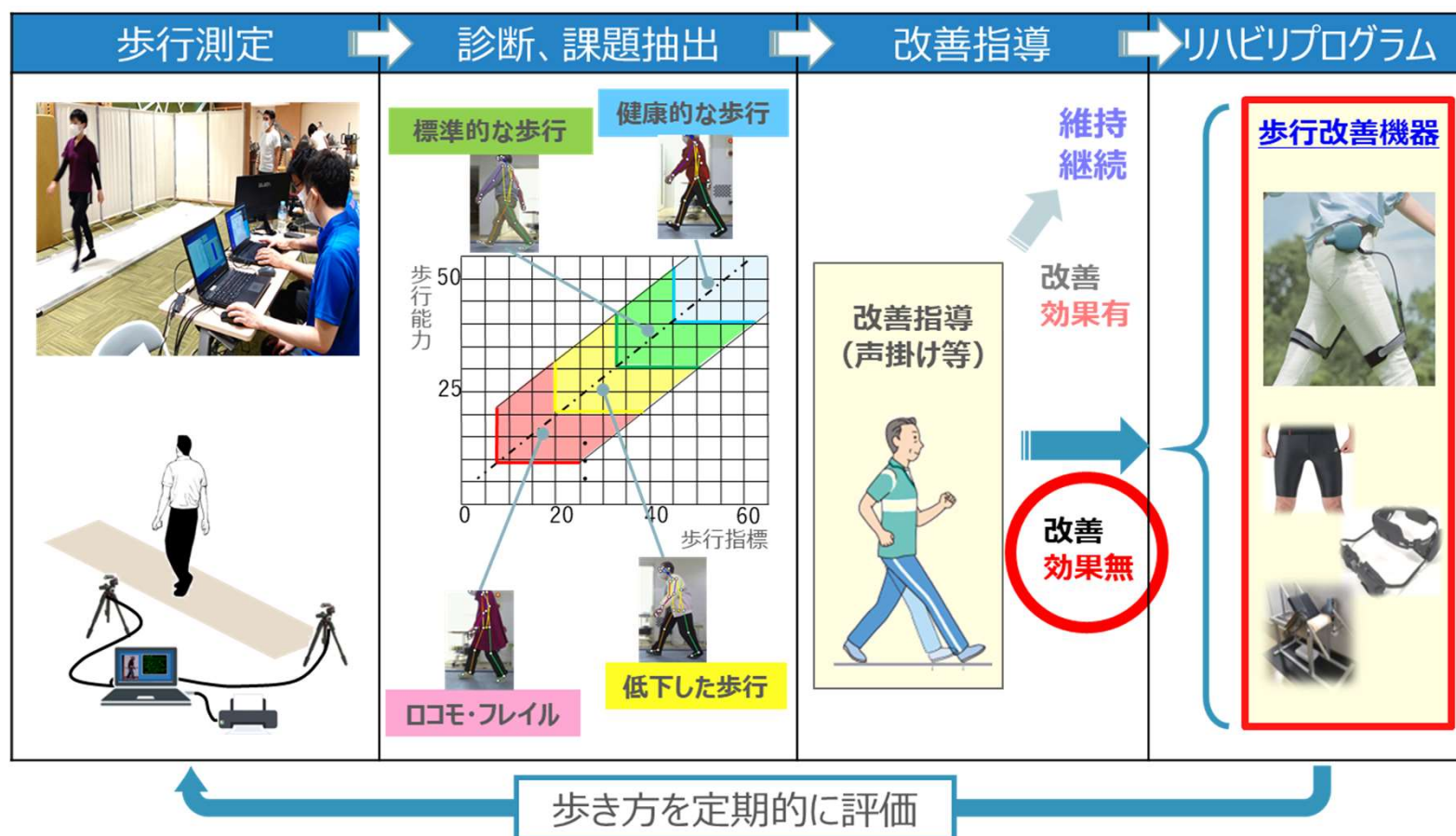
V. 株式市場への対応

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

■新事業

無動力歩行支援機「aLQ」や歩行測定システムのリソースを活かした、測定から改善まで一気通貫の歩行ビジネスをベースに、トータルなヘルスケアを担う事業への発展を目指す。



■新製品：

未来型電動カート「myride（マイライド）」の販売を開始

IMASENグループの福祉機器の開発、製造、販売を行う株式会社今仙技術研究所が未来型電動カート「myride（マイライド）」の販売を開始しました。

myrideは、足腰に不安を抱えている方に、今一度
「自らの意思で動く楽しさ」
を提供する電動カートです。



特長

- ▶ 視認性を上げる後部大型LEDと近未来的なデザイン
- ▶ 前輪オムニホイール採用による優れた走行性能
 - ・高い直進性と小回り性能
 - ・50mmの段差乗越性能
- ▶ 電動格納機能



■ パラスポーツ振興活動

2023年3月8日、パラ陸上の山下千絵選手とのスポンサー契約を締結しました。



山下選手は国内の下腿義足スプリントにおいて次世代エースとして今後のさらなる活躍が期待されています。また、小学校の体験授業やトークセッションのパネラーなど、積極的に社会貢献活動にも取り組む姿勢に共感し、今回の契約に至りました。

やました・ちえ（1997年7月13日生まれ）
神奈川県出身 法政大学スポーツ健康学部卒 SMBC 日興証券所属
2018年 第29回日本パラ陸上競技選手権大会 100m 3位・200m 優勝
2019年 第30回日本パラ陸上競技選手権大会 200m 優勝
2019年 ジャパンパラ陸上競技大会 100m 2位・200m 優勝
2020年 日本パラ陸上競技選手権大会 100m 2位
2021年 ジャパンパラ陸上競技大会 100m 2位・200m 優勝

I. 2023年3月期 連結決算概要

取締役 執行役員

堀部 修一

II. 2024年3月期 連結業績見通し

取締役 執行役員

堀部 修一

III. 中長期の取組み

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

IV. ESG経営

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

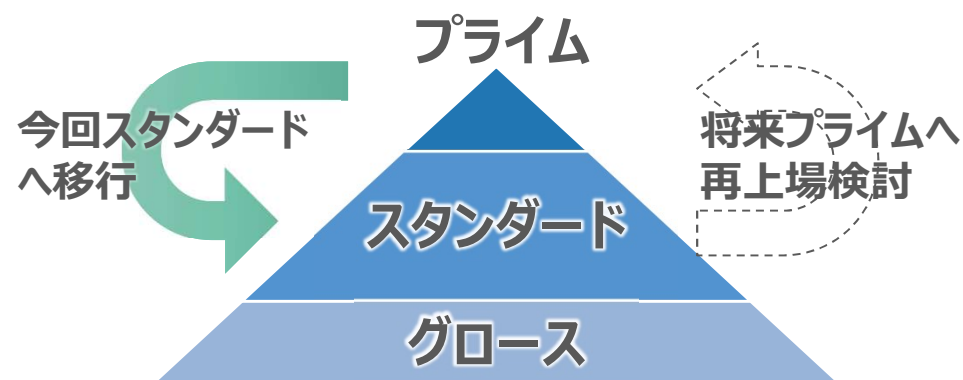
V. 株式市場への対応

取締役 社長執行役員

櫻井 孝充

■ 東証市場区分の再選択

項目	実績	備考	プライム		スタンダード	
			基準	評価	基準	評価
株主数	5,900人	23年3月末	800人以上	○	400人以上	○
流通株式数	110,465単位	23年3月末	20,000単位以上	○	2,000単位以上	○
流通株式 時価総額	80.3億円	1～3月平均株価727円 (適合には906円必要)	100億円以上	×	10億円以上	○
売買代金	0.28億円/月	22年1月～12月平均	1日平均売買代金 0.2億円以上	○	-	-
	13,950単位/月	22年7月～12月平均	-	-	月平均売買代金 10単位以上	○
流通株式比率	47.1%	23年3月末	35%以上	○	25%以上	○



▶ 投資家の皆様にとってのメリット

安心して当社の株式の保有、売買ができる環境を整える

▶ 当社にとってのメリット

プライム市場適合に割かれるリソースを将来の成長に向けた基盤構築に集中させる

足元の経営環境からスタンダード市場へ移行を選択するも
将来的なプライム再上場を目指し活動を継続

■ 自己株式の取得状況(期間：2022年11月～2023年11月)

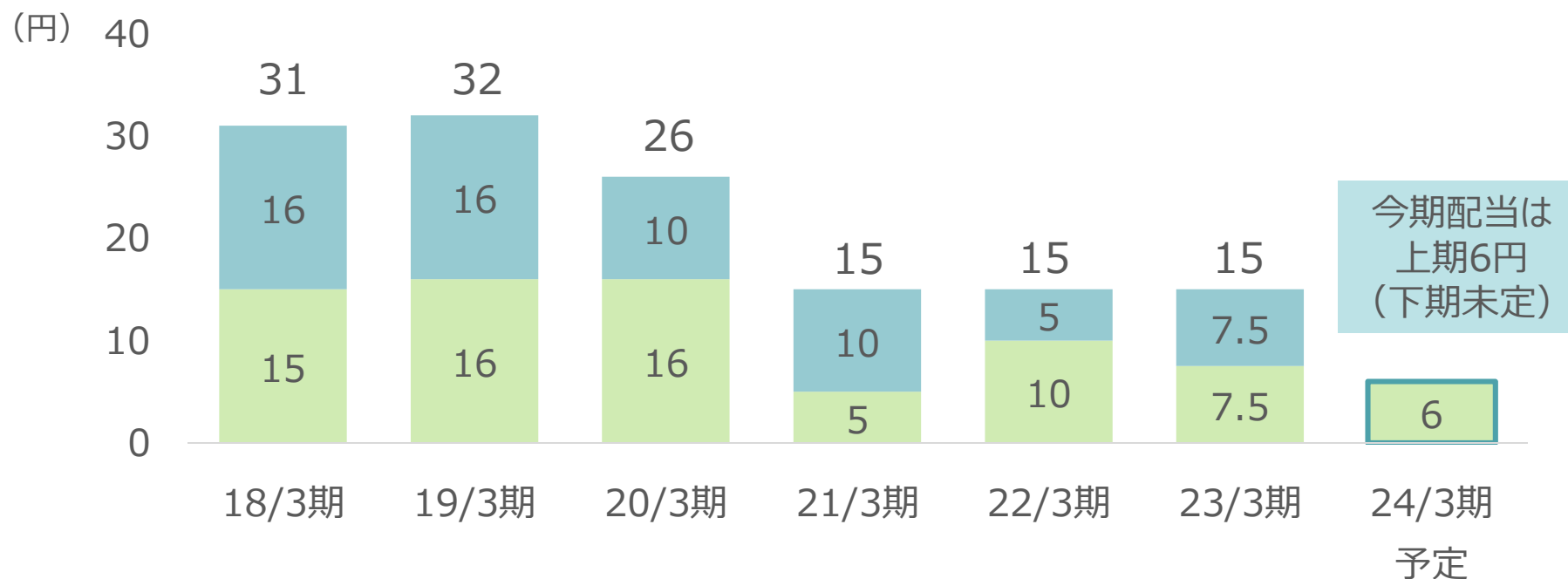
株主への利益還元水準の向上および資本効率の改善を
目的とした自己株式取得を2022年11月24日 取締役会
にて決議し実施しております。

	株式総数	取得総額
取締役会 決議内容	1,150,000株 (上限)	850百万円 (上限)
23年4月末 累計実績	676,000株	480百万円

■ 配当予測

【配当方針】

持続的な成長を維持していく中で、財務体質と経営基盤の強化を図りながら株主の皆様への安定的・継続的な利益還元を行う



ROE向上に努めエクイティスプレッド拡大に取り組む

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>